

会議録

| | |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議名 | 令和５年度（2023 年度）第 1 回八王子市文化財保護審議会 |
| 日時 | 令和 5 年（2023 年）7 月 10 日（月）18：00～20：00 |
| 場所 | 八王子市役所 本庁舎 8 階 801 会議室 |
| 出席者 | 【委員】 相原悦夫会長・加藤哲副会長・阿部朝衛委員・内野秀重委員・ 小林直弘委員・紺野英二委員・津山正幹委員・野嶋和之委員・ 本間岳人委員・高久舞委員・山本憲佳委員 【事務局】 平塚裕之部長・叶清課長・鈴木正生課長補佐・岡部雅洋課長補佐・ 河津美穂子主任・山本泉主任 |
| 欠席者 | 青木淳委員・岩橋清美委員・西川広平委員 |
| 議題 | 1 報告事項 令和 5 年度 4 月の人事異動について 令和 4 年度の事業報告について 令和 5 年度の予算概要について 市指定天然記念物の樹木診断について 八王子駅南口集いの拠点整備について 2 その他 |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 傍聴人 | 0 人 |
| 配布資料 | 1 八王子市文化財保護審議会委員名簿一覧 2 報告事項資料 3 資料「令和 4 年度事業報告」 4 資料「天然記記念物調査報告」 5 資料「診断結果報告（R5. 2. 13）」 6 別添資料「機器診断結果」 7 別添資料「八王子市南口集いの拠点整備について」 |
| 会議録 | 要点筆記とする。 |

開会

(事務局から、当日配布資料の確認。事前配布資料はなし)

平塚生涯学習スポーツ部長

(冒頭挨拶)

5月にコロナが5類に移行して、市内のイベント等も復活し、賑わいが戻ってきた印象です。来月には、八王子まつりも4年ぶりに開催されます。地域の獅子舞も行われると聞いています。白糠との交流事業も再開し、八王子の子供たちが白糠に行く予定になっています。

また、来年、日光市と苫小牧市との姉妹都市締結が50年を迎えるので記念式典なども計画されています。7月には苫小牧の子供たち、日光の小学生がそれぞれ八王子に来て、市民と交流することも企画されています。

文化財の関係では、2月に「多摩のメカイ」が東京都の無形民俗文化財に指定されたのも新しいニュースです。

大きな話では、4月に八王子市の基本構想・基本計画が10年ぶりに改定され、「八王子未来ビジョン2040」として公表されました。これからの10年間、20年間を見据え、市民との共創をキーワードに、八王子の町の発展に市民と一体となって取り組むということが大きく掲げられています。文化財行政については、昨年策定した「文化財保存活用地域計画」に基づきながら、文化財の保存活用を進めることになっています。今後、市内各地域の人たちが身の回りにある文化財、歴史、文化等を把握して、八王子の未来づくりに繋がるような意識づけ、郷土愛の醸成に繋がるまちづくりをしていきたいと考えています。

最後になりますが、今年は「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」という日本遺産の大きなイベントも控えています。東日本では初めての開催で、全国104の日本遺産認定地域が集まり11月4日、5日に東京たま未来メッセを会場にして行います。多くの方が八王子に来られるので、八王子の歴史、文化の魅力、そして伝統芸能、伝統文化もお披露目するようなイベントを企画しています。初日にはオープニングセレモニー、シンポジウムをJ:COMホールで開催する予定です。文化財の保存・活用についての基調講演やパネルディスカッション等、文化財に関わる内容の式典を用意します。そちらも御案内しますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。

どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

(部長退席)

相原会長

大変暑いところ御苦労さまです。これより、令和5年度第1回八王子市文化財保護審議会を開催します。

今回は報告事項 5 項目を 1 項目から順次進めていきたいと思います。

報告事項 1 令和 5 年度 4 月の人事異動について

(叶課長より説明)

報告事項 2 令和 4 年度事業報告について

報告事項 3 令和 5 年度予算概要について

岡部課長補佐

(報告事項 2 について、資料に沿って説明)

(報告事項 3 について)

文化財課の本庁所掌の令和 5 年度予算は、約 6,780 万円を計上（前年度比△2,354 万円）。

マイナス要因は、八王子城跡の用地取得予定がないため約 3,300 万減。

増の要因は、光熱水費、特に電気代の単価が上がる見込み分、天然記念物の調査委託、八王子城跡御主殿跡の冠木門建替えに先立つ設計の経費となります。

日本遺産と郷土資料館の分を含めた文化財課全体では、約 2 億 600 万円で約 8,000 万円増。

増額の要因は、郷土資料館関係の光熱水費の増と、日本遺産フェスティバルの費用の計上があります。

(質疑応答)

小林委員

冠木門の設計とありますが、史跡内建造物にあたりますか。

岡部課長補佐

はい。八王子城跡の御主殿虎口の石段を上ったところにある門が古くなってきましたので、来年度建て替える予定で、事前設計をします。

小林委員

基本設計を今年度する、ということですね。

岡部課長補佐

おっしゃる通りです。

叶課長

この場所は山を背負っていて、かなり腐る進行が早いという状況なので、少し前倒しで建て直す必要ができたところです。

小林委員

よその文化財で、倒れてしまって怪我をされている方もいますので、直す自体はいいと思いますが、門を建て直す時の構造などはどうするのですか。史実に基づくのか、それとも、ゲートとして新しく造ってしまうのですか。

岡部課長補佐

今ある門自体が、史実の再現という形ではないので、使用する素材や工法等も含めて文化庁に相談しています。指導を踏まえて、設計に入る予定です。

報告事項4 市指定天然記念物樹木診断について

説明員として、清水浅川地域事務所長が出席

相原会長

報告事項4 市指定天然記念物等の樹木の診断について、事務局から説明をお願いします。

山本主任

(市指定天然記念物樹木診断について、資料に沿って説明)

続いて、横山事務所のオオツクバネガシについて、別紙の資料で現状を報告します。

この木は、令和5年2月10日の降雪によって枝が大きく折損してしまいました。2月13日には外観診断を行い、3月にさらに精密な機器診断を実施しています。

機器診断の結果、降雪で破断した枝の折れた部分から下に向かって、広範囲に腐朽が進行している状態が確認されました。このままでは倒伏等の恐れがあるため、全体的に樹高を落とすための剪定をし、樹体を支える支柱設置が望ましいと指摘がありました。

診断結果を踏まえ、3月17日に文化財保護審議委員の皆様にご意見をいただき、天然記念物の保存と市民の安全確保のため、樹高を6m程度に落とす剪定を早急に実施することにしました。令和4年度中の3月23日に文化財課予算で剪定を行い、四脚鳥居の支柱設置については木の管理者である市民部に診断結果と合わせてお送りし、令和5年度予算での対応を依頼しました。

叶課長

本日、浅川地域事務所長の清水が出席していますので、事務所側の支柱設置とそれに伴う伐

採について、3月23日時点と比べて、かなり伐採をしています、施工の考え方についての説明させていただきます。

清水浅川地域事務所長

今回の施工は、施設管理者として、相模原市のキャンプ場で発生した倒伏による死亡事故のようなことが絶対にあってはならないとの考えのもと行いました。内容は、倒木防止のため、防腐処理済みの丸太を使用して、四脚鳥居を設置しました。根株の腐朽率が87.2%だと聞いたので、万全の安全確保のため、丸太は通常10cmのものを使用することが多いそうですが、15cmの丸太を特注しています。

枝については、支柱設置に支障があるところと、これから台風の季節になることを考慮した剪定を行いました。来所者への安全を第一に、そして木本体への負担軽減、これ以上の腐朽を防ぐということを勘案して施工しています。

叶課長

1点、補足します。今回降雪で一番太い枝が折れてしまったという状況を考えますと、日々多くの市民の方が来所する施設ですので、当初の予定よりも伐採の範囲が広がりましたが、安全確保という面でやむを得なかったと思っています。

数日前にも、明治学院大学にシンボルツリーがあつて、指定文化財ではないようですが、その腐朽率が70%ぐらいだった。それが、多くの学生が日々過ごす校内で事故があつてはならないというところで、泣く泣く伐採をするというニュースがありました。皆様には、こういう状況の中で、今後この木を保全していくにはどうしたらいいのか、知見をお出しいただいで、今後に生かしていければと考えています。

相原会長

市の指定天然記念物について報告いただきました。特に横山事務所のオオツクバネガシについては、現在、最善の方法で対応していると説明いただきました。我々も3月17日に状況を確認しています。最近、バーベキューの最中に木が倒れて、犠牲になった方がいるという例もあったので、横山事務所では人的被害が及ぶ可能性がある環境を考慮して、樹木診断の結果を得た措置よりさらに剪定する選択をしています。

何かご意見はありますか。

内野委員

横山事務所のオオツクバネガシは、根元に近い部分の腐朽率が高いため、根元から伐採した方がいいという考え方もあったかもしれません。その中で、原型をとどめていないかもしれませんが、割といい状態で対処していただいたと思います。

木というのは、そもそも芯の部分は死んでいて、それがなくなって空洞化しているか、詰ま

っているかだけの問題です。皮の部分で生きているので、枝が出ているところから根元に向かって組織が分厚くなったり、筋肉が発達するようになっていくことがあります。横山事務所の木も、コンパクトながらもいい樹形のものに復活していった欲しいと思いますし、その可能性は十分あると思います。ただ、切り口から病気が入らないようなものを塗っているとは思いますが、キノコが生えることが今後一番心配されます。いずれにしても定期的に観察して、変化があればできるだけ早く対処することが必要だと思います。

カシノナガキクイムシの方ですが、この辺のコナラを中心に、木に突入するようになって4年目になります。今年は新しい木に虫が入る活動があまり活発ではなくなっています。八王子でも、北の方と南の方では少々違いますし、山中寄りか、丘陵地寄りかでも違いますが、いずれにしても勢いは弱まっているので、収束に向かいつつあると思います。

ブナ科の樹木はほとんど、虫が入っているのが当たり前になっていて、あとはその木、その木に抵抗性があるかないかの問題です。樹液がうんと出ていけば、多分ほとんど負けないです。樹液が出ているということは、中の虫をやっつけている状況なのですね。樹液が出ない木は枯れてしまう可能性はあります。あと1、2年頑張れば、カシノナガキクイムシの心配は小さくなって、十分耐えたとなるかと思っています。

ただ、2、3年前にカシノナガキクイムシが入って急速に枯れていった木が、今、非常に危険になっています。多分市内あちこちにあると思います。長池公園では現在、雑木林の道を封鎖して、100本以上切っていますが、それでもまだ、一度刈り込んだ木からも枝が落ちてくるという事態があります。ですから経過観察は重要だと思います。

あと高月のクワですが、先日、通りかかったのを見たら、剪定した後がすごくいい状態になっていて、少し驚きました。剪定した際に文化財課が、剪定枝をくれれば挿し木してあげるから頂戴、とっておいたら本当に届けてくれました。それを挿し木にしたところ、今、5、6株がついています。必要であればお返ししますし、長池公園にも1、2本植えてもいいかもしれません。

それと大塚神明社のイチョウの枯れ枝は、指定管理の範囲で先日、撤去が完了しています。

相原会長

内野先生には、実際に木を見ていただいて、我々の分からないような部分も今、説明していただきました。こういう機会がないと、なかなか天然記念物についての見識も広まっていかないのではないかと思いますので、機会を得たというメリットもあるのではと思います。

(高久委員、到着)

河津主任

内野先生、評価いただきありがとうございます。剪定した部分の養生は、薬液を注入して防腐防虫の処理はできていると聞いています。ぜひアドバイスいただきたいのは、もともと

太い枝だった部分に、金属板で蓋をしました。この処置は、樹木への影響を考えると今後このままでよいのか、どうでしょうか。

内野委員

かつては、人工的なもので蓋をするのが、樹木医の世界でものすごくはやりました。ただ最近、自然に任せていった方がいいという考え方に変わりつつあります。こうやって金属で蓋をすると蒸れてしまい、中に虫が住んでしまう。雨も完全には防げないので、蓋はない方がいいという考えです。診断した樹木医さんは何とっていますか。

山本主任

切り口に珪藻土を塗ったりするようなこともあると聞いています。

内野委員

そういう自然に近い素材のものに代替えするとか、その辺は説が分かれているところです。私はあまり鉄板で蓋などはしない方がいいと思いますが、色々な方に意見を聞いて、よりよい処置をしていただければと思います。

河津主任

施工後、まだ1か月なので、少し様子を見て対応を考えます。

津山委員

樹木診断対象にこれらの10本を選んだ理由はありますか。

河津主任

今回の診断は、市指定天然記念物に単体で指定されているものを全て対象としました。甲州街道のイチョウ並木も指定文化財ですが、700数本あるので、1本1本全部市費で診断するには予算措置が難しいですし、国道の並木として国に剪定等の維持管理をしていただいているので、対象外としました。樹木診断をすることになった発端がナラ枯れ問題だったので、カシノナガキクイムシが入りやすい樹種をまず診断し、本年度のなるべく早い段階で全件の診断を終えて、来年以降、対応が必要なものについては処置できるよう予算を組む、という計画です。高月のクワは、別の案件で予定より契約金額が下がって、予算の余剰がでたので4年度内に剪定等ができました。

内野委員

高月のクワについて、もう1点補足です。挿し木をして分かったのですが、非常に特殊なクワのような気がします。クワというのは、野生のヤマグワと、栽培グワと大きく分かれるの

ですが、栽培グワはたくさんの品種があります。高月のクワは、栽培グワの珍しい品種ではないかと思います。品種については説明板などに書いていなかったの、私にはよく分からないのですが、創価大学の久米川先生という方が詳しいので、一度見ていただけるといいのではと思いました。

報告事項 5 八王子駅南口集いの拠点整備について

相原会長

報告事項 5 八王子駅南口集いの拠点整備について、事務局から説明をお願いします。

(八王子駅南口集いの拠点の整備事業 PR 映像を上映)

鈴木課長補佐

(別紙 5-1、2 に沿って説明)

資料は、PFI 事業者の提案をベースにしたものなので、今後の協議によって一部変更になる可能性があります。

令和 5 年 3 月 6 日に市と特定目的会社八王子ミライテラスパートナーズ株式会社との間で PFI 事業契約を締結。ミュージアムの設計、施工及び運営は、乃村工藝社です。契約期間は、開館まで 3 年半の準備期間と、開館から 15 年後までの管理・運営で令和 23 年の 9 月 30 日までです。

集いの拠点全体の敷地面積は約 5 万 2,000 m²、東京ドーム 1 個分の広さです。とちの木通りから西に向かって最低幅 16m のプロムナードが公園を横断します。プロムナードの北側に 2 階建て円形デザインのメイン棟を配置し、南側には昨年度日本文楽プロジェクトから譲り受けた檜造りの舞台を活動展示棟に納め、和の雰囲気が感じられる中で伝統芸能や市民が発表できる場など、幅広く利用できる空間を提供します。また、天候に左右されことなく屋外活動ができる広さ 507 m² の大屋根広場とレストラン棟を設置します。

メイン棟 1 階には歴史・郷土ミュージアムと、講演やイベント、ヨガ教室、ダンス教室等が行えるスタジオなどを配置します。

歴史・郷土ミュージアムは、訪れるたびに新たな気づきに出会える展示と、学びを深め、共有できる体験等を有機的に連携させ、市民・地域とともに、八王子の次の 100 年を考えていく「協創促進型ミュージアム」を実現していきます。

常設展示室は二つ設けます。合わせた広さは「はちはく」の 2.5 倍、郷土資料館常設展示室の 1.45 倍です。常設展示室は、可変性を重視した仕組みとし、日本遺産をはじめとした八王子の歴史文化の魅力を彩り豊かに展開できる展示環境を整えます。また、事業者にはポップカルチャー等の多くの人々が親しみやすく、楽しめる展示を提案してもらう予定です。

特別・企画展示室は、広さ約 248 m²で、郷土資料館特別展示室の 4 倍です。国宝や重要文化

財を八王子の歴史資料と比較展示するなど、都心の博物館へ出向かなくても貴重な実物資料に出会える場所を提供します。

ほかに、中央展示ロビー右側に郷土ラボという、市民、学校、物館など、多様な主体と連携し、歴史学習や研究の成果等を発表できるオープンスペースを設けます。ロビー左側の歴史郷土閲覧コーナーは、中高生などの調べ学習や、歴史図書の閲覧及び歴史相談等に対応できるようにします。

郷土ラボの隣にはキッズスペースを設け、未就学児を伴う親子連れが遊びを通じて郷土の歴史文化を知り、愛着が育める空間を設けます。

キッズスペースの隣には土器作り、勾玉作りなどができる体験展示室を設け、3D プリンターやレーザーカッターなど、普段はなかなか利用できないハイテク機器も設置し、ものづくりの楽しさが味わえるスペースとして整備します。

今後の予定は、今年度は医療刑務所施設の解体及び集いの拠点施設の基本設計、実施設計が行われ、令和6年から7年度に公園整備と施設の建設が行われます。

ミュージアムについては、今年度は基本設計と協創活動の準備に着手し、令和6年度は実施設計を行います。

このような整備を進めながら、令和8年10月に集いの拠点オープンを予定しています。

相原会長

事務局から、これから3年かけて、八王子駅南口に新しい八王子の未来施設を造るということで、その概要を説明していただきました。何かご質問ありますか。

野嶋委員

やはり一番興味があるのは、収蔵施設についてです。今、分散されて保管されている資料を、この1か所に収蔵できる規模、広さは確保できているのでしょうか。これまで資料保管は郷土資料館の建物や稲荷山など、状況次第で、言ってみれば付け焼き刃の中途半端な形でずっとやってきたわけですね。せっかく新しいものができるなら、なるべく1か所へ収蔵できるようにした方がいいと思うのですが。そういう考えで進めているのかどうか。それを伺いたいです。

鈴木課長補佐

収蔵庫は、上野町の郷土資料館よりはかなり広いスペースを確保しています。そこに展示で必要なものや大切に保管しなければならないものを優先的に保管していきます。私達も当初もっと広いスペースを考えていましたが、全体で面積を圧縮され、材料費の高騰などがありさらに20%減となり、結論から申しますと全部をここに入れるのは難しいです。

野嶋委員

展示や、市民の方が資料に触れるということも大切だと思いますが、やはり一番肝心なのは、集めたものをきちんと収蔵することだと思うのです。今まで、郷土資料館の雨漏りや空調の故障といった報告もありましたし。八王子は中核市にもなっているのに、集めてきた文化財がきちんと収蔵管理ができないとなると、心配になります。

叶課長

御意見、真摯に受け止めたと思います。ただ、予算等の制約がある中で優先順位をつけながら、これだけの面積を何とか確保したところですよ。今ある収蔵品については、減量はせずに減容して、できる限り新しい収蔵庫に収容できるような工夫に取り組んでいます。

小林委員

今のお話、設計条件に今ある分量の収蔵に必要な面積を見て貰っていないということですか。収蔵庫というのは、これぐらい容量が必要です、八王子市にはこれだけ資料があります、ということを提示して、それを納める方法を建築的なアプローチで回答してくださいと、施主として要求できると思いますが。今のままでは、事業者側から言われた面積で、こちらがどうにか賄いますという話になってしまう、受け身なのかと思います。できる、できないはあるかもしれませんが、こちらから一度提言した方がいいのではないですか。

鈴木課長補佐

小林委員のおっしゃるとおり、まず収蔵資料がこれだけあって、というところからなのですが、集いの拠点の建物のスタート時点で、公園全体の面積に対して建物面積は何%まで、というのが決まっているという制約があります。

小林委員

この建物は、収蔵庫をメインとして、資料をどうやって守っていくのかというものではない、ということですか。

叶課長

複合施設として、ほかにライブラリー施設等もあり、それぞれの面積の取り合いの中で、ミュージアムとしてはこれだけの面積が必要です、と示した上で、いろいろ調整があり最終的には今、提示した面積の中で何とかしなければいけないという状況です。

小林委員

ライブラリーは、八王子の図書館網が、ここに一つ入るという考え方ですか。

叶課長

市の図書館の一組織として入る予定です。ただ、今までの図書館とは少し目先を変えて、基本的に図書の貸出しはせず、その代わりに、公園内に持ち出して芝生でごろごろしながら読んでも、一日ここにいても大丈夫、といった、図書館利用の新しいスタイルを提案しているところもあります。

相原会長

こういった施設は、総合的な見地から検討していくものですから、資料館の範疇だけで論議するのはなかなか難しいですね。各セクションから意見が出されて、それを集約してこういう形のモデルができたのかと思います。公園の全体面積の中で建築に該当する面積というのが決まっている。その範囲内で、最大有効活用するという視点で論議は進められてきたのだろう、と思っています。

叶課長

この公園の機能は、公園機能とライブラリー機能と、歴史・郷土ミュージアム機能ともう1点、防災機能も備えています。東日本大震災のようなことがあった時、駅に滞留することなく、ここで過ごすことができるという防災機能を持たせます。中央に広く公園の敷地がありますが、ここは有事の際にヘリポートとして活用する。施設も防災倉庫などで備蓄品も蓄えつつ、非常時に対応できるような施設になる。そういう複合施設で。

加藤副会長

資料の図には収蔵庫が④しかないですが、①から③はどこに設置するのですか。

鈴木課長補佐

収蔵庫自体は収蔵庫の①から④までの四つの部屋を、温度、湿度環境を分けた形で用意いたします。

河津主任

この図は全体図面ではなく、お客様に見える部分しか出ていません。4tトラックがつけられる荷解室、写真等も撮れる部屋、収蔵庫といった部分は省略しています。収蔵庫④は収蔵展示という、収蔵庫も兼ねた展示室を考えているので表に出ている、ということです。バックヤードは、別に図面等を引いているところです。

加藤副会長

全体イメージ図を見ると、山、というのがありますが、これは盛土をするということですか。

叶課長

ここは高低差が 12 メートルぐらいある、緩やかに南に行くに従って上っている土地です。できる限り現状の土地を生かすことになっていて、基本的に盛土は行いません。

加藤副会長

八王子市のハザードマップを見ると、ここは浸水の危険性の場所に指定されていますよね。そういうところにミュージアムを造って大丈夫なのか、という気がします。

鈴木課長補佐

川の氾濫の危険性はないですが、若干水が溜まるというところがハザードマップ上に出ています。そこは土を入れるなど、整地して対応すると事業者から話が出ています。

加藤副会長

その、水が溜まる場所があるというのが気になるものですから、十分注意してください。

鈴木課長補佐

はい。

阿部委員

地形については、川崎市民ミュージアムが、収蔵品が全滅状態になったのは御存じかと思いますので、気をつけていただきたいと思います。

一つ、収蔵庫の面積の問題です。展示室に比べて相対的に収蔵庫の面積が小さい。今、仮に展示室のスペースを少し減らして収蔵庫のスペースを増やしたとしても、おそらく 10 年ぐらいたつと、最大に造った収蔵庫すら満杯になると思います。ですから、この数字もこれからも多少動くだろうと思いますが、この場所でなくても第二の収蔵庫といったものも同時に考えた方がいいかと思っています。

それから、もう一つ。設計、計画は乃村工藝社が中心に、具体的な展示も含めて計画をして、オープンになってからも乃村工藝社が具体的な事業を行うということですか。それがずっと続くということでしょうか。

鈴木課長補佐

運営は、乃村工藝社がミュージアムに関しては行い、令和 23 年まで継続されます。

阿部委員

もう一つの問題は学芸員の執務室。収蔵庫のスペースの問題もありますが、資料整理をしたり、分析をする、そのためのスペースが小さい気がします。その辺りのスペースも造っていただいた方がいいかと思っています。

鈴木課長補佐

学芸員の研究室、執務室については、歴史郷土閲覧コーナーの奥に一部屋、大体 5、60 m²くらい部屋があります。それから、このイメージ図には出ていませんが、バックヤード側に資料の調査室や、写真スタジオも用意しています。

あと、収蔵庫は約 690 m²とあるのは床面積で、収蔵庫③を除いては中二階にして、大体 1,200 m²ぐらいの収蔵庫のスペースは確保する方向で今、事業者と協議しています。

阿部委員

検討中で表に出せない資料もあるとは思いますが、できれば、全体の図面もあった方が、ここで何を求めているのか、バックヤードがどう用意されているのか等が分かり、審議会でも議論できるのではないかと思います。出せる範囲で出していただけたらと思います。

叶課長

今の案は事業者提案なので、今後、多少とも配置などは変わりますが、可能な範囲で全体図をお見せできるようにしたいと思います。

阿部委員

収蔵庫も、有効面積は中二階造れば増えると思います。逆に展示しながら収蔵するとなると有効面積は減るはずです。ですから、具体的な案が分かれば分かるほど、多分色々な意見が出てくると思います。せっかくの審議委員ですので。マル秘資料なら持ち帰らないですとか、そういう対応もできると思いますので、できるだけ情報を教えていただければと思います。

野嶋委員

これを建てることについて、私たちは別に直接関与するわけではなく、報告があって意見を述べさせていただいているのですが。私自身としては、今、郷土資料館が持っているもの、例えば、八王子市史を編さんの時に集めた資料等、できれば一括で収蔵してもらいたいというところが1点。

資料というのは、何家文書といったものはそれほど分量はないですが、民俗資料は、木桶一つでも色々な種類があります。でも今までの資料館では、もう置く場所がないから、欲しいけれどもいらないと断ることが結構多かったと思います。ですから、これから100年、200年先々まで、市内にある色々な資料を八王子市で保存、活用していくには、やはり収蔵、維持管理をきちんとしていかなければいけないわけです。そのためには場所が必要で、場合によっては温度管理も必要かもしれません。せっかく新しい施設を建てるのに、寄贈してもらえとか、本当ならば集めたいものが、収蔵できないから引き取れないため、ごく一部のものしか残らないというのは、はっきり言って中身がない気がします。民俗資料などは、一つの

ものは1種類ではなく、色々なバリエーションがあるので、本当なら全部集めておいた方がいいのです。それを集められないというのは、やはり場所がないからです。せっかく新しく造るのだから、その場所を確保して、ここで駄目ならもう一つ造るなど、そういう考え方をお持ちになった方がいいと思います。

叶課長

御指摘、真摯に受け止めます。使い勝手は格段によくなると思いますので、今までよりはしっかりと受け止められる余裕といったものはあるかと思います。その中でよりよい保存活用を実現できるように努めてまいります。

相原会長

色々意見があると思いますが、これからでき上がっていく過程の中で意見を集約して、できる範囲内で努力をしていただけるようお願いしたいと思います。

その他

河津主任

事前に小林委員から、高尾山大師堂修理の計画があると聞いたので、分かっている範囲で情報共有をお願いしたいというお話が来ています。こちらについて、薬王院の山本委員から、情報提供をお願いできましたら。

山本委員

高尾山で所有している、東京都有形文化財の大師堂が、最後に補修したのが昭和37年でそれ以降、屋根を除いて現在まで60年あまり修復をしていない状況になっています。こちらを後世に引き継ぐための大切な修復を行うために、修理事業計画を立てています。東京都に確認していただいて、屋根の部分は、損傷はそんなにないが、縁周りや柱の部分が半分傷んでいるので、骨接ぎや、組み換えという形で修理を行う検討を考え始めたところで、令和6年度に実施する計画を今、八王子市を經由して都に上げるところです。

河津主任

東京都の担当者が確認したところでは、解体修理するほどひどい状態ではないということです。縁周りの床板で反ってしまっている部材をきれいに組み直すのと、胡粉や漆の塗りがはげ落ちている部分を補修する。あとは歪みが出ている部分を修正する形で、建っている状態を維持したまま修理を行う方向でよいと。東京都の補助金交付対象事業になるので、来年度の予算取りに向けて、今、書類を準備している状況です。大体の計画を上げて、補助金について、事業を進められることになったら、詳細を詰めていくことになります。

山本委員

薬王院も代替わりをして、文化財修繕の経験がないので、委員の皆様に御助言いただければ大変ありがたいと思います

相原会長

11月5日に私、講演で高尾山の建造物のお話をする予定です。東京都の文化財に指定されているものと、されていないものと混在していますが、昭和27年以来、何回かに分けて指定され、それに伴い昭和の大修理をやり、平成11年には飯縄権現の彩色補修などを行っています。そうした流れで今回大師堂の修理という話が出たのだと思います。放置しておくといくつと劣化していきますから、東京都の補助金との折り合いの中で修理をしていく。市の方でも対応をつつがなく進めていただければよいかなと思います。

小林委員

薬王院では、この建物は都の指定で、適切に保護されていると思います。今、建築学、建築史学の中で、江戸時代中期頃の建物が注目され始めていますので、この修理を行う機会ぜひもう少し掘り下げた調査をできたらいいと思います。地域計画の中に、文化財のより深い研究というのとも入っていますので、市の方でも協力ができるのなら、何かできたらいいなと思っています。文化財の指定というのは我々審議会の中では大切なことです。薬王院には、まだ未指定のものなど色々あると思います。まずはそれらのリストアップが一番最初なので、そういったことから何かお手伝いできたらと思います。微力ながら僕らができることがあればやりますし、ほかにやる人がいれば、やっていただければいいと思いますので、ぜひ御検討ください。

山本委員

はい、かしこまりました。ありがとうございます。

相原会長

ぜひ、よろしく願いいたします。ほかに事務局からありますか。

河津主任

相原先生のお話にありました、11月5日の高尾山の講演も一部ですが、日本遺産サミットはたま未来メッセがメイン会場になりますが、サテライト会場としてはちくや八王子城なども協力するのと、エクスカッションとして現地視察や、ディスカッションなどが行われます。具体的な内容については詰めているところですが、パネラーでご出席いただきたいとか、式典に御参加いただきたいといった御案内をする場合もあると思います。その節は御協

力と御参加をお願いします。

山本主任

部長の挨拶にもありましたが、八王子まつりが久しぶりに開催できそうなので、今年度と来年度、2年間かけて調査を行う計画を進めています。発端は、法政大学社会学部で社会調査士という資格取得の授業を担当している武田俊輔教授から、実習のテーマとして八王子まつりを取り上げ、祭りに参加して町会の方々と交流しながら調査ができないか。その協力を文化財課にお願いできないかという話がありました。地域計画でも、学生、大学との連携の推進をあげているので、共同調査という形で八王子まつりの現状について把握調査を行う計画です。社会調査士の実習授業が2年単位なので、2年度にわたり、本年度は上地区を対象とした調査を行い、来年度は下地区の調査を行う考えです。既に6月13日に相原先生に御足労いただいて、大学で八王子まつりについての概要の講義をいただきました。その後、祭りの実行委員会事務局のふれあい財団で聞き取り調査を行いました。7月には町会で実施する山車の清掃等に立ち会わせていただきながら、町会長からの聞き取り調査を行い、祭りの本番、8月4、5、6日には町会と一緒に祭りに参加しながら現状記録を行っていくという形で調査を行います。まだ手探り状態ですが、進めていきたいと考えています。こちらは大学との連携という形になりますので、郷土資料館と法政大学ソーシャル・イノベーションセンターというセクションと協定を結ぶことになっています。

鈴木課長補佐

郷土資料館でも、まつりの調査と一緒に入りますが、もう一つ帝京大学の高久先生と、帝京大学総合博物館と連携して、本年度は絹の道周辺地域の調査を先月行いました。永泉寺、小泉家屋敷、諏訪神社、そこの辺りを1時間半ほど、全部で3、40名ぐらいを2グループに分けて、郷土資料館のガイドボランティアが案内して歩きました。ちょうど先週、今週、再来週で学生の発表会があるので、資料館でも報告を聞きに行こうかと思っています。大学や博物館との連携は歴史・郷土ミュージアムの協創機能として充実していく考えなので、来年度、再来年度も継続して進めていこうと思っています。

高久委員

元は八王子市から文化庁の企画しているイノベーションミュージアムで帝京大学と提携できないかと声をかけていただいたところから始まっています。

私の日本文化学科民俗学のゼミ生で、コロナでこの3年間、何もできなかった状況の中で、初めて調査をするので色々検討させていただき、鑑水でまずは調査をしよう、となりました。鑑水の芸能、祭囃子だけですが、それを広く考えようといった形でゼミの教育を、八王子市との連携でというのも今考えているところです。

もう一つ、法政大学の武田先生は長浜の曳山祭の調査・研究されている先生でして、武田先

生ともお話をし、私も八王子まつりを少し研究していたこともあり、色々とお互いに情報交換をしながらやっていこうと思っていますので、その辺りも含めて、八王子市とも続けて連携していければと思っています。

相原会長

大学との連携した、八王子まつりを対象にした本格的な調査研究というのは初めてですね。そういう意味では、非常に注目されている事業の一つということになります。

私も 6 月、それから昨日、武田先生と御一緒に、実態調査の中でお話させていただきました。我々が郷土の誇りとして持ってきた八王子まつりの山車や、本格的に社会学の見地からまつりの分析をして、都市の文化の在り方というものを追求してみるという、画期的な事業ではないかと思います。今日おいでの高久先生も、非常に大きな力になっていただけるのではないかと思います。

以上、ほかになれば、第 1 回の審議会を終了いたします。

閉会